

## 管内の出穂期は平年より大幅に早まる見込み！

### 湛水管理の徹底を！

8月 日	上旬		中旬			下旬	
	1	5	10	15	20	25	30
生育	出穂期		傾穂期		乳熟期		
水管理	湛水管理：カドミウム吸収抑制対策						間断かん水
作業			かみシ防除	薬剤防除後1週間以内 農道・畦畔草刈り		かみシ防除	
	← 休耕田・法面 草刈り禁止期間 →						

## 1 7月26日現在の生育状況 ～葉色かなり低下～

表1 水稻定点調査結果(農業振興普及課)

○7月26日現在の生育は、草丈は平年比103%、茎数は平年比97%、葉数は平年差+0.3という状況です。

○葉色は7月5日以降急激に低下し、7月26日時点では平年比90%と淡くなっています。

○5地点中4地点で10%未満の出穂を確認しました。生育が早まっており、管内の出穂期も平年よりも大幅に早まる見込みです。

○管内の一部ほ場では、葉いもちの発生が散見されます。出穂前後の穂いもち防除を徹底しましょう。

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	73.9	517	12.5	34.2
平年値	71.8	533	12.2	38.0
平年比	103%	97%	+0.3	90%

品種：あきたこまち、管内5カ所平均

## 2 水管理～ 8月25日頃までの湛水管理でカドミウム対策を～

- カドミウム吸収抑制対策として、湛水管理を実施します。
- 湛水管理を行うことで田面が空気に触れないように保ち、還元状態にすることでカドミウムの溶出を抑え、水稻に吸収されるのを防ぐことができます。

## 3 病虫害防除 ～2回防除と草刈りで斑点米カメムシを徹底防除～

### ①いもち病（穂いもち）

- 葉いもちの発生が確認されるほ場では、出穂7～15日前にコラトップ粒剤5を散布するか、出穂直前と穂揃期に予防剤（ラブサイド剤またはビーム剤）の茎葉散布を行います。

### ②斑点米カメムシ

- 薬剤防除は出穂期10日後頃（スタークル剤）と出穂期24日後頃（キラップ剤）の2回防除を基本とします。
- 農道・畦畔の草刈りは出穂10～15日前を目安に一旦終了し、出穂10日後頃の1回目の薬剤防除の後（1週間以内）に、農道・畦畔の草刈りを1度行います。これにより、散布した薬剤の効果を高め、効率のよい防除ができます。その後は収穫2週間前（9月上旬）まで草刈りを中断してください。（下図参照）

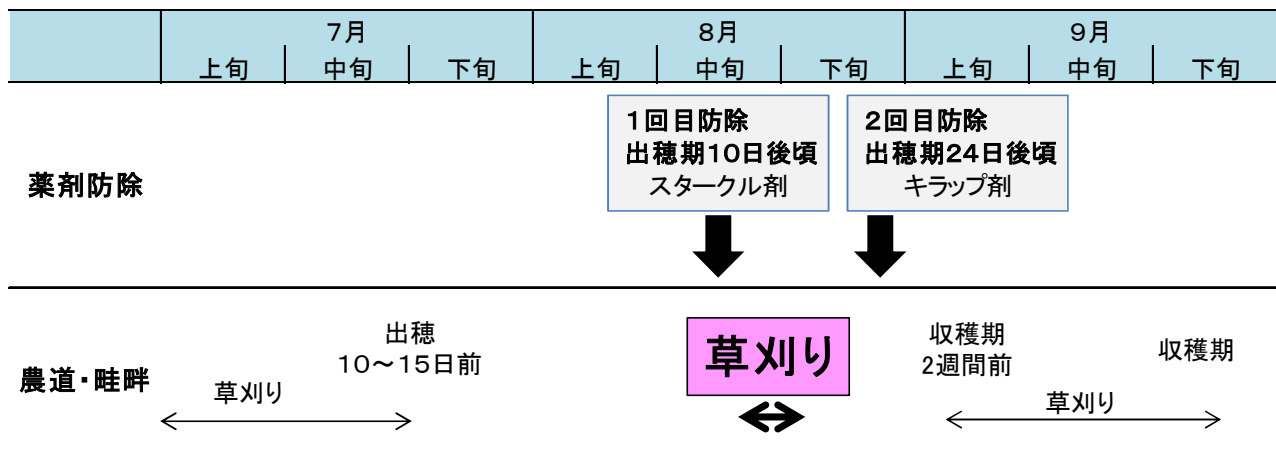


図 斑点米カメムシ類の薬剤防除と耕種的防除

◎ご質問は、JAかつの営農経済部(23-2497)か鹿角地域振興局農業振興普及課(23-3683)まで